

——新春にあたり考えてみたいこと——
二十一世紀の課題

「地球に笑顔を取り戻そう！」

——地球がダメになれば、人類も滅ぶ——

◎昨年十二月、京都で開かれた「温暖化防止国際会議」で、このまま二酸化炭素（CO₂）排出量が続くと、北極・南極の氷河がとけ、もし、海面が十メートル上昇すれば、浜松は勿論、東京・ニューヨーク・ロンドンなどが水没すると指摘されましたが、大国の国益固執などによって、有効な取り決めはなされませんでした。こんなことでよいのでしょうか。

◎地球の環境は、海水汚染、大気汚染、フロンガスによるオゾンホールが発生、大地汚染、森林消失、砂漠化などが、じわじわと進み、私たちの子や孫がその被害を受けることは確実です。このまま放置してよいのでしょうか。

◎今や地球がSOSを発しているのに、世界各国は愚かにも、地球全体のことはそっちのけで、兵器開発・軍備増強・車の増産・生活の便利さを求めて、しのごしを削っています。わが日本では、六千万台の車がひしめき、年千五百億個の空き缶が転がっています。もし、人類がアメリカなみの生活を望めば、五億人か生きられないとも言われており、もしそうなら、あとの五十億人は死ぬほかにありません。地球がダメになれば、人類も滅びます。

◎地球の悲鳴に耳を傾けず、このまま放置すれば、環境汚染の被害は人類全体に及んでくるのは確実ですから、二十一世紀はどうなることでしょうか。

地球を救うためには、今こそ全人類が一つとなって一致協力して解決に当たるしかありません。その一つの方法は、昨年の世界全体の軍事費：約八千億ドル（1\$130円で換算すると104兆円）：を、人類が生き残るための地球環境整備に出し合うこととです。そして、英知を集めて努力すれば、必ず地球に笑顔が戻ってくるでしょう。

◎地球を守ることは、人類を守ることです。今や、日本国憲法第九条の出番です。「軍備全廃、地球に笑顔を！」これが二十一世紀の課題です。さあ、今年こそ、全力をあげて第九条を実現し、全世界に広めましょう。

一九九八年一月十一日（日）第三七一回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一〜十五